

私の紙面批評

弁護士

清源 万里子

育児と仕事両立後押しを

1月3日付朝刊。県が新たなためには、社会全体で支え、父親がベビーオイルを年度から、女性の就労環境を整備する仕組みがとも重要だ。使ったマッサージュ方法を学進や就農研修場の整備など、厚生労働省が02年に20、ふ写真や「子どもも喜んで支援策の充実を検討してい象に毎年、実施している追参加したい」という参加者る、という記事が掲載され跡調査では、夫の休日の家の感想に心が温まった。大た。広瀬勝貞知事のコメントや育児時間が長くなるほ人が子どもの成長から学ぶトには「女性が存分に活躍ど、第2子以降の生まれることは多く、子育てはとてできるよう、子育て支援と割合が高くなる傾向があるも楽しい。もっと子育てに同時に、仕事を選択し、能という(第14回調査)。男参加したいと感じている男性が發揮できる環境づくり性の家事や育児への参画を性も多いと思う。わが家では、子どもの習に力を入れる」とあった。進めるには、育児休業が取



(きよもと・まりこ)1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。日本弁護士連合会・犯罪被害者支援委員会委員。現在、子育ての真っ最中。

新年早々、良いニュースに触れ、うれしく思った。得しやすい環境を整え、父親同士の情報交換の場をつくらることが大切だ。そうい親同士の情報交換の場をつくらることが大切だ。そうい構基本調査では、県内のつた機運を高めるため、新女性就業率は25、29歳で聞に期待するものは大きい。8割を超えるが、30歳代では7割台に低下する。出産今年1月、白出町で初めて育児で離職しているため、父親の育児や家事への介してほしい。そのことが、めとみられ、これは育児負担参加を促す自主サークル男女の別なく、だれもが育担が女性に偏っている実態「日出っPAA」が発足し、育児と仕事を両立できる社会を表している。女性が子育て(1月28日付朝刊)。第の表現を後押ししていくのをしながら仕事を続ける1回の活動の内容が紹介さだ。

い事の送迎と宿題の見直しは夫の役割。「仕事も子育ても男女で等しく関わることが出来る」。これが本来あるべき姿であると思う。そういった社会が実現できれば、自然と女性の社会進出が進み、少子化にも歯止めがかかると思う。県内各地で取り組まれていく子育て支援や、男性の育児参加を推進する動き。今後も本紙で、どんどん紹介してほしい。